

令和6年度 国際バカロレア（IB）の教育効果等に関する調査研究結果を踏まえた

IB教育の特徴3選！

～次期学習指導要領に向けた基本的な考え方とも軌を一にしています～

主体的に学習に向き合い、「**自らの人生を舵取り**できる力」を育成しています。

主体的

「**社会に開かれた教育課程**」を実現し、**文理融合**の学びを通じて「多様な子供たちの『**深い学び**』を確かなものに」しています。

深い学び

「当事者意識を持ち、自分の意見を形成し、多様な**他者との対話**や合意を図る」**課題発見・解決能力**を持つ**グローバル人材**を育成しています。

対話的

IBの教育実践により、「主体的・対話的で深い学び」がどのようなものか具体的に分かる（教員A）

IBと非IBとの授業の行き来があるから先生の資質も高まる（校長B）

IB教育は、学習指導要領で示された学びを具現化するための具体的な方法やヒントを提供するものです

令和6年度 IBの教育効果等に関する調査研究 (結果)

本資料は、文部科学省の委託業務として国立大学法人筑波大学が実施した調査研究の結果を基に作成したものです。



DP生の特徴とは？

【令和6年度質問紙調査概要】
◆対象：一条校のIB認定校に在籍する高校2年生
◆調査協力校：31校
◆回答数：1,794名（DP生：443名、non-DP生：1,351名）

	DP生	non-DP生	DP生の特徴
男女比(男：女)	1：1.78	1：1.31	<ul style="list-style-type: none">DP生は女子生徒の割合が比較的高いDP生の約半数がMYPの履修経験がある(non-DP生も2割)DP生の方が、自身の成績を「上のほう」と評価する割合が高い英検等の取得率は総じて高いDP生全体の81.2%が英検を取得 うち、約3分の1が準1級or1級を取得
海外学校経験率	32.9%	13.8%	
MYP経験率	50.6%	20.4%	
成績(自己評価上位率)	26.5%	19.2%	
英検取得率	81.2%	79.8%	
英検(準1級以上の取得)	31.0%	8.6%	
TOEFL受検率	11.6%	2.8%	
TOEFL(iBT95以上,IPT625以上)	76.1%	38.8%	

表. DP生とnon-DP生の基本情報の比較

DP：高校段階のプログラム MYP：中学校段階のプログラム

考察：DP生の特徴－ 1

～一条校IB校に在籍するDP受講生と非受講生の調査回答を比較しました～

① 学びへの主体性

- 課題への探究心が強く、**自主的な学びや新しいことへの挑戦に積極的**である。
- 社会や自然環境への関心が高く、**学びを生活や社会と結びつける意識**が見られる。

(調査項目：態度・行動の傾向)

② 対話力・探究力・情報活用能力

- 探究型・協働型学習、フィードバックを通じた**深い学びの経験が豊富**である。
- 英語や多様なメディアを活用した学習機会も多く、**表現・思考力が育まれている**。

(調査項目：授業の経験)

③ 実践的な学びによる社会性

- 海外交流、ボランティア、授業外での探究など、**多様な課外活動に積極的**に参加している。
- 教室外でも学びの場を広げており、**国際的視野や社会参加意識**が高い。

(調査項目：課外活動)

④ 文理融合の学びによる課題解決力

- **外国語運用力・課題解決力・リーダーシップ・理数的能力が相対的に高い**。
- 興味関心に対する深い学びと、行動を起こす主体性が特徴的。

(調査項目：資質・能力)

考察：DP生の特徴－2

～一条校IB校に在籍するDP受講生と非受講生の調査回答を比較しました～

⑤ 高い学習満足度・進路意識

- 自己効力感・学習満足度が高く、将来の進路(学問・職業)を明確に意識している。
- 高校生活全般に対する肯定感も高い。

(調査項目：学校生活満足度・進路意識)

⑥ 学びに向かう力

- 海外進学志向が高く、人文・社会系や理・農・工系など探究的分野を志望する傾向が強い。
- 国際志向と探究重視の学びが進路選択にも影響している。

(調査項目：進路希望分野)

⑦ グローバルな視野

- 家庭の国際経験や情報環境が比較的整った生徒が多い。
- 学習への文化的・経済的支援は、DP生にやや多く見られるものの、non-DP生にも確認される傾向である。

(調査項目：周囲の環境)

【令和6年度基礎調査（結果） ※令和5年度の実績】

- ◆ 調査協力校：35校
- ◆ DP修了生数：475名
- ◆ 上記のうち、国内大学進学者数：309名
海外大学進学者数：124名

令和7年度に実施予定の高校3年生調査結果との比較を通じてDP生とnon-DP生にどのような変化（成長）が見られるかを明らかにしていく

各大学はどのような観点からIB生を受け入れているか？

「国内外から多様な人材を受け入れるため、IB生を対象に、主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標を持って学ぶ意欲、語学力を含むコミュニケーション能力などを重視」（☛2025年度上智大学入学試験要領参照）

「IB資格取得者は、グローバルに活躍する素養と高い学力を備えており、グローバル人材を育成する上で必要となる人材」（☛2025年度岡山大学学生募集要項参照）

主な進学先情報 (2023年度修了生)

国内 (回答学校数 : 25校)

上智大学 (45)
立教大学 (23)
岡山大学 (13)
国際基督教大学 (13)
早稲田大学 (10)
法政大学 (8)
立命館大学 (7)
玉川大学 (6)
慶応義塾大学 (5)
広島大学 (5)
大阪公立大学 (4)
北海道大学 (4)
横浜市立大学 (3)
関西学院大学 (3)
高知大学 (3)
桜美林大学 (3)
鹿児島大学 (3)
順天堂大学 (3)
中央大学 (3)
東京外国語大学 (3)
東京理科大学 (3)
武蔵野美術大学 (3)
立命館アジア太平洋大学 (3)

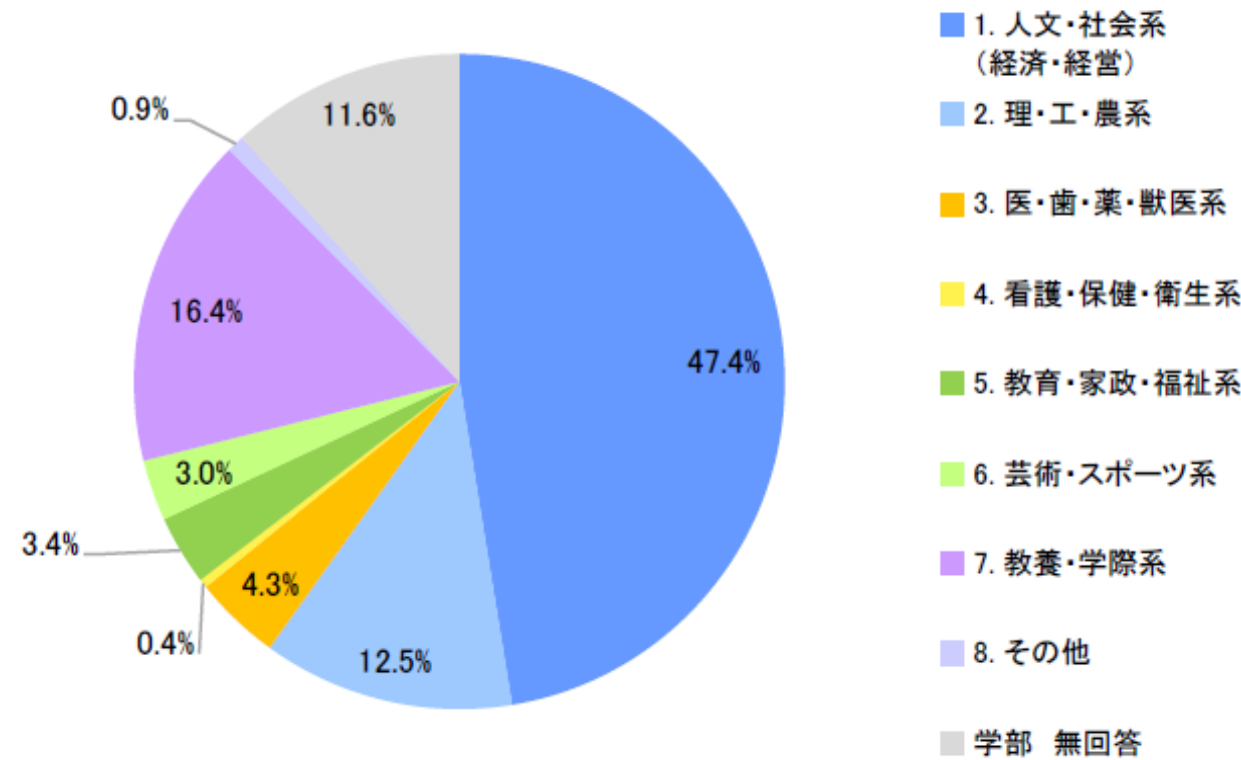
※ 1 上位23の進学先大学名
※ 2 () 内は進学件数、青字は国立大学

海外 (回答学校数19校)

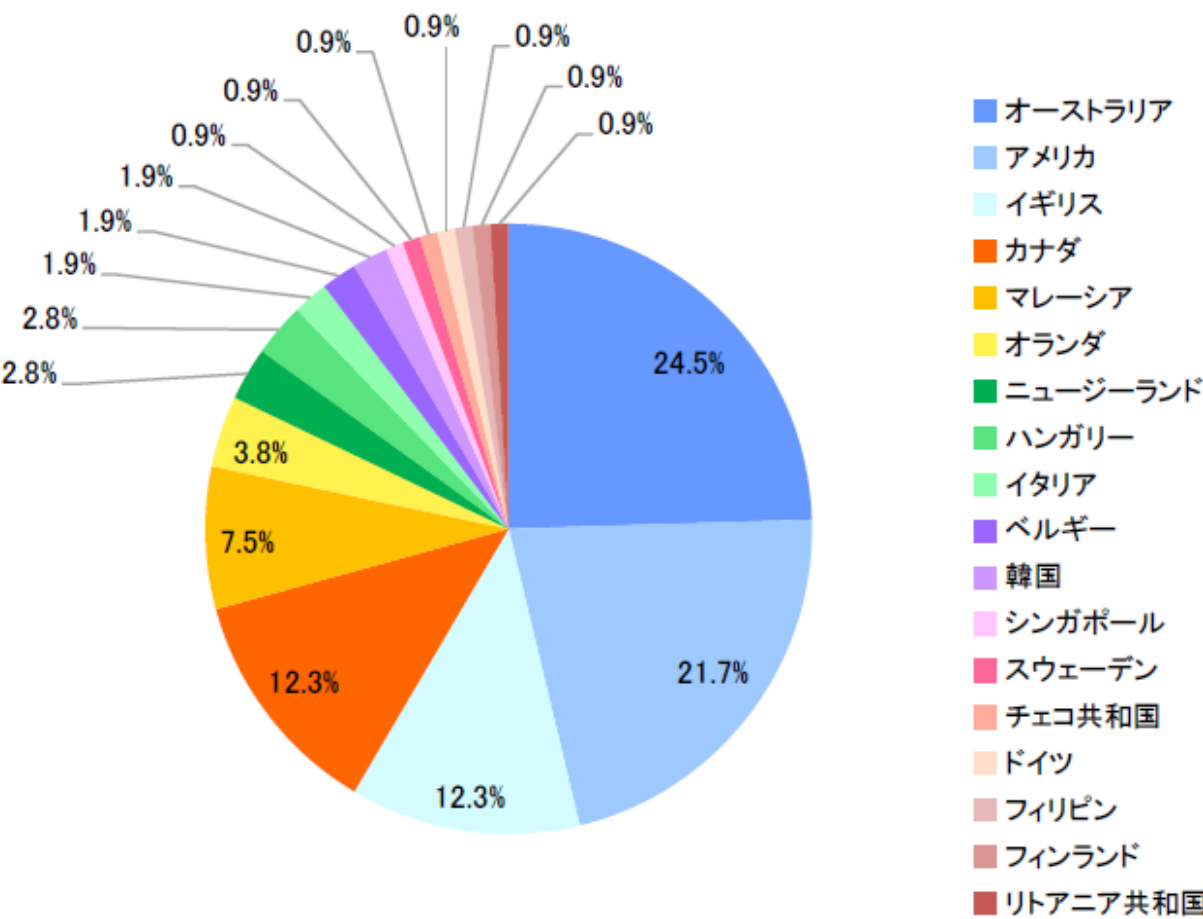
University of Melbourne【豪】 (7)
Temple University, Japan Campus【米】 (5)
Taylor's University【馬】 (5)
Queensland University of Technology【豪】 (4)
University of New South Wales【豪】 (4)
Monash University Malaysia【馬】 (4)
University of Toronto【加】 (3)
Simon Fraser University【加】 (3)
University of Sydney【豪】 (3)
University of British Columbia【加】 (3)
Dickinson College【米】 (2)
University of Manchester【英】 (2)
University of Otago【NZ】 (2)
University of Queensland【豪】 (2)
ハンガリー国立大学 (2)
Leiden University【蘭】 (2)
University of Leuven【ベルギー】 (2)

※ 1 上位17の進学先大学名
※ 2 () 内は進学件数
※ 3 米国は、アリゾナ州立大学やインディアナ州立大学、カリフォルニア州立大学、オレゴン州立大学、ペンシルベニア州立大学、メリーランド州立大学のほか、スタンフォード大学、コロンビア大学、プリンストン大学など (各 1 件)
※ 4 英国オックスフォード大学も 1 件あり

【国内大学／学部分類】



【海外大学／国名】



【参考】主な進学先情報（2022年度修了生（2023年度調査結果））

国内

上智大学（22）
 横浜市立大学（11）
 国際基督教大学（8）
 立教大学（8）
 岡山大学（7）
 早稲田大学（6）
 法政大学（6）
 慶応義塾大学（4）
 青山学院大学（4）
 大阪公立大学（4）
 筑波大学（4）
 都留文科大学（4）
 東京外国語大学（4）
 明治大学（4）
 立命館アジア太平洋大学（4）
 立命館大学（4）

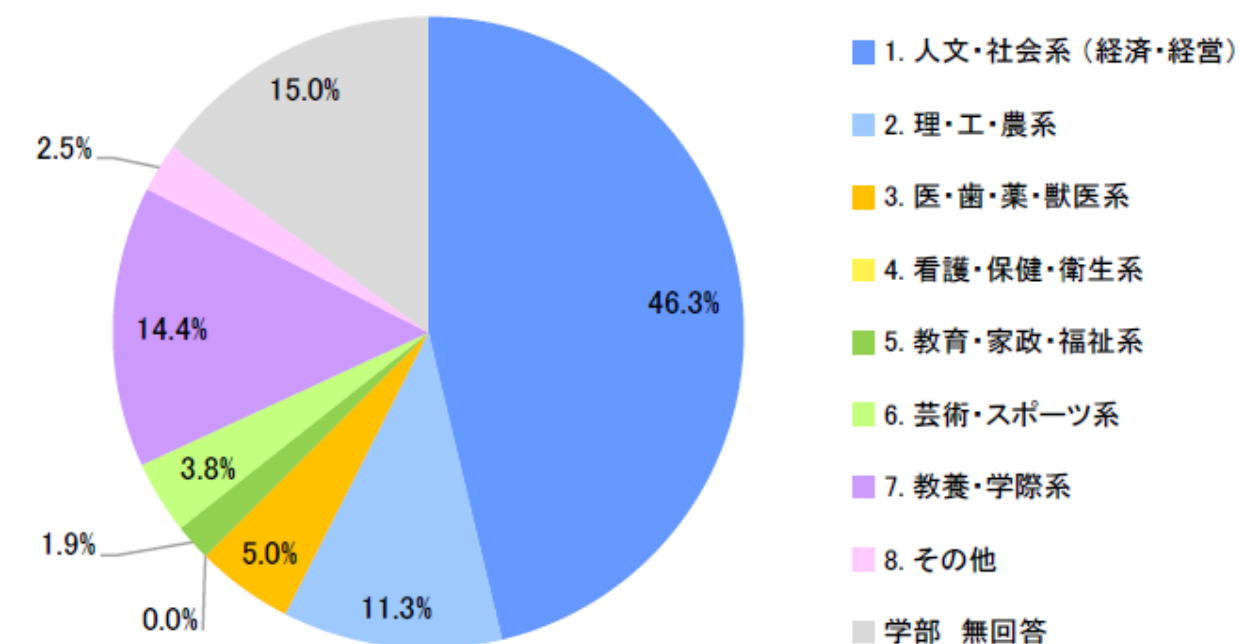
※1 上位16の進学先大学名
 ※2 （ ）内は進学件数、青字は国立大学

海外

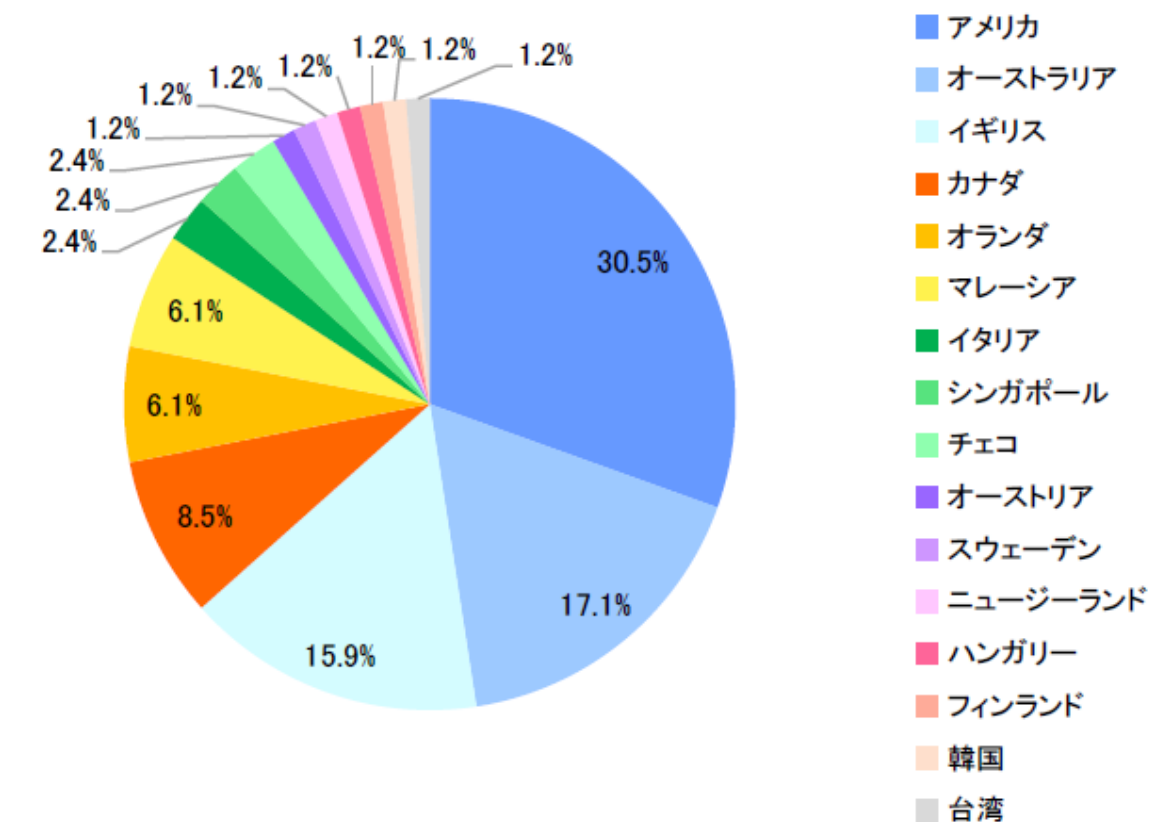
University of Melbourne【豪】（9）
 Taylor's University【馬】（4）
 University of British Columbia【加】（3）
 University of Queensland【豪】（3）
 University of Toronto【加】（3）
 King's College London【英】（2）
 University of Manchester【英】（2）
 National University of Singapore【星】（2）
 チェコ国立大学（2）
 Birmingham City University【英】（2）
 University College London【英】（2）
 Leiden University【蘭】（2）

※1 上位12の進学先大学名
 ※2 （ ）内は進学件数
 ※3 米国は、アリゾナ州立大学やカリフォルニア州立大学、
 ニューヨーク州立大学、ワシントン大学など（各1件）

【国内大学／学部分類】



【海外大学／国名】



<教員インタビュー結果>

IBが示す明確な内容

学習者像 ATT、ATL

「学習者像とか、ATT、ATLみたいな、**世界共通でバーンと定められている**のが、私には気持ちよかったっていうのはあります。明確でわかりやすかった。**みんな同じ方向**見て、こういうスキル、先生たちもこういうアプローチをとって、目指すべきはあの10の学習者像。あそこに、お互い一緒に行けばいいんだなっていう感じになったのが大きかったなと思います。」

「IBの場合だと、何かテーマを設定するときに、こういう要素を必ず入れてくださいなっていう条件がいろいろとあるので、**テーマが結構つくりやすい**というか、**明確にしやすい**というのがあります。」

ATT：指導のアプローチ
ATL：学習のアプローチ

学びの専門家としてのIB教員

環境の整備

教員研修の保障
学びのネットワーク

「本校のIBの先生方、オープン・マインドなので、本当にいつでもどうぞって言うと、校外から本当にふらっと土曜日とか見に来てくれるんですよ。」

学ぶ動機

世界基準の学び
自分のやりたかったことのメソッド化

「自分が今までやってきたこと、**本当にやりたかったことをうまく整理してメソッド化**している」

「大事なのは自分の専門じゃないと気づきました。**大事なのは、生徒と一緒にやってみる**。多分、最初の1年なかばぐらいに気づきました。最初はすごく難しかった。」

(参考)

学習者像	指導のアプローチ (ATT)	学習のアプローチ (ATL)
探究する人	探究を基盤とした指導	思考スキル
知識のある人		コミュニケーションスキル
考える人	概念理解に重点を置いた指導	社会性スキル
コミュニケーションができる人	地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導	自己管理スキル
信念をもつ人	効果的なチームワークと協働を重視する指導	リサーチスキル
心を開く人		
思いやりのある人	すべての学習者のニーズを満たすために個別化した指導	
挑戦する人	評価（形成的評価および総括的評価）を取り入れた指導	
バランスのとれた人		
振り返りができる人		

(出典)

- [LP-Japanese-RGB--proof2](#)
- 「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」